

## 健康診断で行うγ-GTPとは

γ-GTP(γグルタミルトランスアミノトランスフェラーゼ)は、肝臓がもつ解毒機能に関係している酵素で、肝臓や胆管の細胞が壊れると血液中にγ-GTPが流れ出てくることから、逸脱酵素といわれます。そのためγ-GTPは、肝臓や胆管の細胞が壊れたことの指標として利用されています。

健康診断の結果で注視する症状は、脂肪肝です。特にお酒を飲む習慣をもつ方の場合、飲み過ぎによるアルコール性脂肪肝が問題になります。その重要な診断指標として、このγ-GTPが活用されます。γ-GTPの正常値は男性で50国際単位(U)以下、女性で32U以下です。γ-GTPの値が100U以下であれば、節酒あるいは禁酒することですぐに正常値に戻ります。

γ-GTP値で注意しなくてはいけないのは100U以上に上がった場合です。

①100U〜200Uですと、お酒の飲み過ぎで、脂

脂肪肝が進行している可能性がります。厳格な節酒か禁酒が必要です。

②200U以上になった場合は、アルコールだけでなく、胆石や胆道がんなどによって胆道が詰まっている可能性があるので、病院で詳しい検査が必要です。

③稀に500U以上になる場合は、肝臓の細胞が破壊される肝炎、肝臓に脂肪が多量に蓄積する脂肪肝などが疑われ、胆石や胆道がんなどで胆道が詰まり、黄疸などの症状がある場合にも高くなります。また、大量の飲酒による急性アルコール中毒といった極めて危険な状態の場合にも高い数値になります。

γ-GTPが高い数値となり病院に行くと、肝臓に関係した他の逸脱酵素(GOT、GPT、ALPなど)に加え、黄疸の有無、腹部エコー検査、更に肥満度や、コレステロール値なども調べることになります。

脂肪肝が進行していれば、禁酒という方法に加え、カロリーを摂り過ぎないためのダイエット療法を行います。また、コレステロールが高い場合には、薬物治療を同時に開始すること

があります。もちろん胆石や胆管がんがあれば、検査と治療を行います。飲酒の習慣がなく、ALT、ASTの値が上昇傾向なら、C型、B型肝炎ウイルス、自己免疫性肝炎や原発性胆汁性肝硬変症、非アルコール性脂肪肝(ナッシコ)が併発すると、欧米ではその20%が肝硬変や肝がんに行進するとされます。ナッシコの患者さんは生活習慣病を複数合併しており、糖尿病と診断される確率が高くなりますし、日本人は肥満がなくても糖尿病になりやすい遺伝的要素もあります。少しの体重増加にも注意が必要です。

とにかく、γ-GTPの上昇がみられたら、病院で精密検査を受け、生活習慣の見直しが必要